



尼義 正奈 AMAGI SEINA

■T159 B123 W62 H110

26歳。22歳の時に警官に、24歳で能力者性犯罪対策組織『テミス』に配属
住吉警部とバディを組み捜査にあたる
優秀で正義感が強くクールだが
中身は意外と普通の女子
住吉に好意あり

■住吉智宏

30歳。警部。正奈のバディ
真面目で勤勉
正奈とも相性が良く
惹かれている。

■万才仁人(まんざいじんと)

49歳。警視。警察署長
セクハラばかりしている上に
いい歳してオタク、実は能力者
自分の体液を相手に摂取
させて同じ趣味性癖にする
『癖共有』をもつ。

——この街では
怪人や能力を持つ
犯罪者が
はびこっている…
その中で性犯罪を
犯す能力者を専門で
取り締まっているのが
警察組織『テミス』…

対能力者スーツに
適正のある者たちで
組まれたチームだ
俺もチームの一員で
バディを組んでいるのが
後輩の……

「住吉(すみよし)先輩…遅いですよ
この犯罪者は確保しました」
彼女は『尼義(あまぎ) 正奈(せいな)』

「11時23分 現行犯逮捕
睡眠誘発能力で女性たちを
睡眠強姦…本当に許せまんね」
正義感が強く実力も折り紙付き
決して性犯罪者を
許さないという信念をもつ頼れる相棒で……

「どうしました?先輩?…いつも
以上にボーっとしてますが」
俺の想い人だ…

「はあ……スーツは汗臭くなるのが欠点ですね……キワどいし……」
「余り服装を緩くするなよ、署長に見られたら……」
「オタクのセクハラ署長ですか……それより先輩
私が先に容疑者を捕まえたなら……」

「あ……ああ、食事を奢る
約束だな、わかってるよ」
「できれば二人きりで……」

「おお、いいところに
尼義くん」
「あ……」

署長……セクハラで
有名なのだが
何故か女性職員達から
被害が報告されない……
それどころか……

「実は君にお願いしたことがあってね
新スーツのテストをと技術部から
通達があつたのだよ」

「……わかりました、お引き受けします」
「ハハハ、さすが我が『テミス』の
期待の星だな」
「なぜだか嫌な予感がする……」
「任せてください、私がコイツの
性加害を明るみにしてみせますから」
いつもの余裕の笑みを浮かべ
彼女は署長と共に去っていく……

「考え……すぎだよな……」

グッ

——だが彼女はその日から
署内で姿を見せなくなった
別施設でスーツのテスターを
しているとのことだったが
スマホでも連絡が取れなくなって……

一月が過ぎた頃……
署長から呼び出しがあった
『彼女のことと通達したことがある』との
ことだった……

不安が大きかったが
彼女と久々に会えるかもしれないという
期待と共に扉を開けると……

署 長 室

状況を飲み込めず
呆然としてしまった……
いつも毅然と
していた彼女が……

頭がおかしくなったような服装をして署長の隣に
立っていたからだ……

「せ、先輩っ!? なぜ……」

「ワシが呼んだのだよ

セイナたんがお前とのバディを解消して私の専用……

……でなく専属秘書になると伝えておこうと思つてな♥」

「正奈……たんっ!?!」

はぁ♡
はぁ♡

「あん♡

そう……です……

センパイ……

心配いりません……

署長は無罪……てした……ぶいっ☆」

ぐろお……

「なっ……何を言つて……今だつて
セクハラを……その格好も」
「これは新しいスーツです……
多少、露出は激しいですが♥」

「そうだよ?」

それにコレは痴漢対策の

トレーニングだからねえ……

それじゃあ報告はしたからね

よろしくね♡」

ま……
あ……

「ちょ……ちよつと」

そんな……あの正義感の強かった

正奈が……何があつたんだ……

「さっきの態度はなんだ!? セイナたん」
「はっ! 申し訳ありません!!」
オチンポリス正奈は

「ほっ♡」
「想い人だった先輩を前にして
『今の私』をさらけ出すことが
できませんでしたっ!!♡」

「まったく...それでは立派な
オチンポリスにはなれないよ?
まだトレーニングが必要かな」

「はっ♡」
「はっ♡」
「はっ♡」

「はっ♡」
「はっ♡」
「はっ♡」

「んふっ♡♡
お詫びして...
署長のデカチン
取り締らせて
いただきます!」
「いぞろ♪許可する♡」

「はっ♡」
「はっ♡」
「はっ♡」

「はっ♡」
「はっ♡」
「はっ♡」



「勝手にイきまくる変態ポリスには
まだ躰が必要だね」

「はいっ！本当はスーツでも何でもない
オチンポリスのコス着てしまう
ドスケベセイナのオマンコとおっぱいを
お嬢お願いしすっ！
んへ♡うへへ♡」

「しゅきしゅき署長♡
べんべんべん♡」

「んや
べんや」

「しゅきしゅき
べんべんべん
しゅきしゅき」

「んふふ♡本当に可愛くなったね
セイナたん♡一ヶ月前痴漢したときは
あんなに嫌がっていたのに…」

「ぐん」

「はい！あの時は署長が性犯罪能力者で
私を囚捜査に出して
痴漢してくるなんて
思いもありません
でしたのでっ…んほ♡」

「でもボクが渡した
『性犯罪者育成デバイス』の
おかげで…」

「しゅきしゅき！
やめろ
性犯罪者め！！」

「はっ！抵抗もできず…
本当は痴漢行為で
感じまくっております！
…んあ♡」

「…んあ♡」

「しゅきしゅき
署長
なせコト…」

「ぐん」

「ぐん」

「ぐん」

「それでボクのザーメン
流し込まれて…うっ！♥」

「は…はっ♡署長の

『癖共有』能力で

スケベコス好きの

オタ女に生まれ

かわりきりだあ！

んあっ♡

ありがとう

ございますっ♡」

「でもボクのチンポ好きに
なったのは
能力のせいじゃないよね？」

「その通りです！実はセイナ
エッチなことに興味津々で…
おっ♡…デバイスあったとはいえ
署長のデカチン痴漢レイプで
イキまくっちゃう根っからの
ムッツリドスケベだからで
あります！」

「ヌフフ…ぐっ！
JKコス思い出したら
コーファンしてきた！
家で帰ったら
あのコスでしょうか♡」

「お願いひまふっ！！♡」

「おっ♡」

「おっ♡」

「おっ♡」

「おっ♡」

「おっ♡」

「おっ♡」

「おっ♡」

「おっ♡」

「おっ♡」

「おっ♡」

「おっ♡」

「おっ♡」

「おっ♡」

「おっ♡」

「おっ♡」

「おっ♡」

「おっ♡」

「おっ♡」



「こも、その前に
プチキスセックスの刑…んんん♡」

「はあ…いんあ…す♡
んぶろろろ…ん♡ひく…ん♡
しよひろ…ん…んぽあ♡
やべっ…いぶろっん!!♡♡♡」

れろろ♡♡♡

べちゅ

べろお

れろお♡

「んぶ♡家戻ったらいっぱい
エッチしようね♡
あの時みたいにな……」



一ヶ月前…
所長による痴漢被害に
あった後……

「どういふつもりですか！
噂の連続痴漢魔が
警察署長だったなんて…
前代未聞です!!!」

「何故なのか…被害届が出てない理由も私の家に来てくれればジックリと教えてあげよう」

「今まで女性達からは被害届が出てないせいで立件することさえ出来ませんでした…」

「では尼義くんが訴えて私を捕まえてみるかね?」

「そうしたいですが…」

「その前に何故こんな事をしたのか…」

フツ

グン

ひゅ!

クゥ…

!!!

（くっ…これは罠よ…署長は何らかの方法で女性達に被害届を出させないようにしてるんだわっ! 私が…お尻もみもみドスケベ♡なセクハラを止められないのも理由があるはず…だから…）
「わ、わかりました…ただし理由が分かり次第、訴えますよ」
（覚悟してなさい!! 性犯罪者め!!）

「どうだい？ボクが大好きな
オゲレツエロゲー」

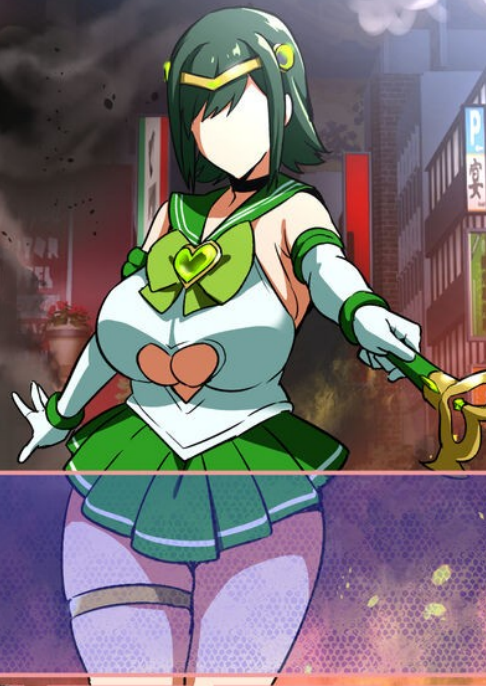
『セーラー・バージン』は？

どのキャラがお気に入りに？」

「オゲレツって…エロゲーのくせに
思った以上に面白いですね…」

キャラは緑の『セーラーグリーン』が…

って！…そ…それより…」



「んっ♡だったら肩を…
あんっ♡パンツに何

押し付けてるんですかっ…

…いやぁん♡」

（な…なんで！？

バカみたいに媚びた声を
出してるんですか、私は…）

（何か、おかしい…セクハラに
抵抗する気が起きないし…

この下劣でスケベなゲームが
楽しくてたまらない

普段なら忌避する内容なのに…）

「さっきから…んっ♡
胸イジルのやめて…

くださいっ…んっ♡

セクハラは犯罪ですよ…っ」

「んふふ…この胸だと
肩もこつてるかと思ってね」

「さっきから…んっ♡
胸イジルのやめて…

くださいっ…んっ♡

セクハラは犯罪ですよ…っ」

「んふふ…この胸だと
肩もこつてるかと思ってね」

「さっきから…んっ♡
胸イジルのやめて…

くださいっ…んっ♡

セクハラは犯罪ですよ…っ」

「んふふ…この胸だと
肩もこつてるかと思ってね」

「さっきから…んっ♡
胸イジルのやめて…

くださいっ…んっ♡

セクハラは犯罪ですよ…っ」

「んふふ…この胸だと
肩もこつてるかと思ってね」

「さっきから…んっ♡
胸イジルのやめて…

「ちよっ…
やめっ…んっ♡

「ちよっ…
やめっ…んっ♡

「ちよっ…
やめっ…んっ♡

「ちよっ…
やめっ…んっ♡

「ちよっ…
やめっ…んっ♡

「ちよっ…
やめっ…んっ♡

「ちよっ…
やめっ…んっ♡

「ちよっ…
やめっ…んっ♡

「ちよっ…
やめっ…んっ♡

「ちよっ…
やめっ…んっ♡

「ちよっ…
やめっ…んっ♡

やっ……
また……!

どどど……

「わ……私に何をしたいんですかっ
んひっ♡あぁっ♡
おっぱいタメえっ♡」

どぢゅ……

（くぅ！また変な声が……
どうやってかはわからないけど
他の女性達も同じように……）

「乳首ちゃん
まだ隠れてるのかなあ
セイナちゃんと違って
恥ずかしがり屋だねえ♡」
「くっ……キモチ悪っ……」
名前で呼ばないでっ……んっ
もう……わかりました！
帰って……この事を……んう！」

「まあ、そう言わず……最後に
『セーラー・バージン』の
VRゲームを……ね？」

「バージンの……VRゲーム？」
「そうそう……とっても楽しいから……ね」
「あう……はあはあ♡」

（ああ……したいしたいしたい♡
ニップルのVRゲーム……きつとすっくぅ……）
「ま……まあ……折角ですっプレイして
からても……」

「……着替えまじたけどコレは……」
「ボクが好きなソシヤゲキャラの水着コスだよ」
「なるほど……じゃなくて……このゲームが終わったら
絶対に罪を償ってもらいますからね!!」

はー♡♡

「いいよ…セイナちゃんがゲームクリアできたら自首してあげる」
「ほ…本当ですか？」
「ただしクリア出来なかったら痴漢の時みたいになか出し一発ね…」
「それじゃゲームスタート！」

「えっ!? 待つて…うわっ! すーい
本当にニップルの世界」

「…って感動は後回し…ミスしたら
また、この性犯罪者に…
先輩…私、負けませんから!」
「ワクワクする? セイナちゃんは
能力でボクと同じ趣味趣向に
なってきたるからね♥」
「能力?…あ、始まる」

「能力…私が変わなのも…いえ!
今はゲームクリアが優先目標!
任務…遂行します!」

「このっ…えいっ! ♥
『セーラーグリーン』…いえ!
更に変身した『セーラーアナル』の
敵ではないわね! んっ♥」

はぁ
はぁ

くちゅ
くちゅ

サッ

サッ

ぽっ!!

ぷっ

びっ!!

ぷっ



「馴染んできてるね♥ボク有能力、素質ないと効果薄いんだけど」
「素質……んおっ!♥」べろりっ

びっおっ!♥

（おお♥驚いてオナラしちゃた!

……恥ずかしい!VRゲームって

触覚再現もあるって知ってたのに）

「んぐう……んへ……興奮してオナラしちゃうなんて

ヘンタイの素質あるよ、ボクと同じ」

「そ……そんなものない!……くうっ♥」

（署長と同じ趣向になる能力……

いえ今は考えるのやめて

ゲームクリア優先!♥）

はっ!♥

ほっ!♥

「すごい♥触手の感触まで再現してる」
（見られてるのに……ゲームに没入して

本当にセーラー戦士になりきってしまう

……うう、悔しいけど楽しいっ♥）

びっおっ!

「このっ!えいっ!♥

『セーラーグリーン』……いえ!

更に変身した『セーラーアナル』の
敵ではないわね!んっ♥」

「このっ!エッチな触手め!
狙うなら一般女性でなく、
この露出狂のセーラー・アナルを
狙いなさいっ!
ほら!おっぱいぷりぷりっ♥
……んほっ!♥」
（署長が聞いてるのになっ
『アナル』のマネしちゃっ♥
ああ♥たのしいっ♥この
スケベゲーム、さいこうっ♥）

はっ!♥

びっおっ!

びっおっ!

「んあっ♥ひあっ!♥」
（ダメ〜ジ連動で振動っ!?
乳首と……股間が……すっ♥）

「っっ…キモチよくても…あっ♡」
(集中しないと…負けたら署長と…
犯罪者とセックス…せつくす…せつくす♡)

ハッ！
もあ！

「はっ！とお……このままいけば
クリアできる……ぬひんっ！」
「ぬふふう」頑張ってるね
……でも……んべろべろ♡」

ぢゅんん

ひあっ！

「んひぁんぁ♡
乳首攻撃つよいん
ぬほぁ♡ふぁ♡♡」
(また『アナル』の声真似
しちゃった？
それにこの感触…
ゲームじゃない？)

ぢゅんん

「更にコッチも攻撃しちゃおうかなあ
べろべろお♡」
「んっ♡んぽぁ♡これっ♡ふっ♡」
(くさっ……これはゲームじゃなくて
署長が触って…いえ、舐めてるんだわ！)
「んぁ♡邪魔ダメっ♡ふっ♡」
「ゲームをより臨場感あるものに
してるだけだよ
楽しいでしょう？べろべろお♡」

おっ

んん

「だのいい♡ですが…ふっ♡
ローラーアナルの唇まで
舐めちゃ…だめ♡♡んっ♡」
「癖共有」でボク好みのバカな媚び声
多くなってきたね♡いいよ♡」

「これは『ローラーアナル』のマネで…ああん♡
さっきからロクハラしてますねっ!!性●罪だめえ♡
(なんで?止める気が
起きない?私…
この状況を楽しんで…
キモチよくなってる…
能力のせいで…
マズイわ…
ゲームだけじゃなくて
性●罪されるの…
たのしくなってる♡)」

「あんの♡それでもクリアっ♡いねえ
いいだけ…ひあん♡」
(ロクハラやオゲレツゲーが
楽しくても勝てば
任務完了…完っ♡えすー♡)

「ならコレで、どうだ!」
「ひくろっ♡んっ!!」
「オマンコ食い込み
ダメええ♡ん!♡ああん♡」

GAME OVER!
「あひ♡…♡あ…♡」
「ぬふふ、賭けはボクの勝ちだね
じゃあ早速…!」

「あー！…何を押し付けてるんですかー！ちょっと…！チンポくりくりダメさな♡」
「負けたらセックスするって話だったでしょう！」
くっく

や…ソコは
ハ…ン！

ズー

「そ…もうですが…邪魔するなんて卑怯ですよー！…んっ♡」
「だから邪魔じゃないって…！それとも無理やり
ヤラれる方がセイナちゃん興奮するのかなあ？♡」
ドキッ
「うっ…そ、そんな訳ないでしょ
……んっ♡」

くっ…♡

キン
キン

ズー

「ち…近い…
キスは許してません！」
「なら…早くエッチしようか♡」

まって…！

「わかりましたよっ！
ただし一回射精したら
終わり！すぐに
再戦ですよ！」
「いいよお♡
楽しみだな…くく」

キッ

「調子に乗って…
私は性犯●者に
負けませんから！」

「おお♥いく♥
またイッ……♡
早く射精……んぎい……♡」
「射精させたいなら……
膣内射精許可してね
ボクが悦びそうなセリフで
懇願したら終わらせてあげる
ふんふんっ!」

「ん♡Vivian……♡
（このまきじゃ……おかしくなる!!
ソックスがこんなにイイなんて……
初めての時はこんなに……あ♡
早く終わらせないと
私……署長とのソックスが……）

「あ♡好きスキい♡ひなちゃん♡のせつ♡
ロイナのせつ♡はベマン♡……ん♡
種付け無責任♡せつ♡のひな♡
犯●者ザーメン♡生てちやう♡だあい♡」
「おほっ♡満点だよセイナちゃん♡んぐう!」

「ふうふう……♡
最高だよお……
こんなに
射精したの久々……
べろおん♡」
「んべえ……ひやめ♡
パンパイとする
つもりだった
ベロチュン……♡
れるれるあ♡」

「わらひの「なけへきひは……
ひえんパイの為に……♡
んべへるあ♡ん♡」
「残念だねえ……彼とこう
なりたかったのにねえ」

「お…スマホ鳴ってるね……お
愛しのセンパイだけど？」

先輩

ブウウウ

あう…
あう…
あう…

「ふっふっ…♡今は…目の前にいる
犯●者を捕らえるのが最優先です！
は…はやく2回戦はじめますよ…ん♡」
「入ったままだけど、いいのお？
ホレホレ♡」
ぐりぐり…

「んあ♡お♡やばっ…♡♡じゃなくて
が、構いません…これなら負けても
早く始めますよ♡♡」

ほっほっ
ほっほっ
ほっほっ

「負けるの前提で
話してるのかな？ぐっ」
「ほっ♡んほっ♡」
舐めないでくださいっ！
次こそクリアっ！
署長チンポが強くても
絶対きけないっ！！♡」

ハイギョ
まきよ

うっ
たまに

「うひひ♡頑張ってるねえ…おっ♡
犯●者チンポでイキまくる…本当は
性犯●者大好きセイナちゃんには
無理だらうけど」

「ほっ♡ほっ♡エロゲーで
キエチやくなっても
正義は勝ちます！
ほっ♡んほっ♡♡」



「あっ♡ひあっ♡負けた♡
負けました♡
だからロックスー約束ですから
性犯●者ロックスしちゃいます♡
ひあっ♡ひあっ♡ひあっ♡」
「ハカ媚び声出すのも慣れてきて…
いえ、元々…言う通り私も
こっぴつのが好き…
大好きだったの力もあ♡」

「ばんばんばんっ！
「ぐぐぐ♡やっぱりね…
こんなスケベ過ぎる体しておいて
『テミス』なんて…ボクの
パートナーがふさわしいよ
公私共に…ね…うぐっ！♡」



「ひい♡ひい…♡署長のパートナー
なんてえ…
「でもボクなら一緒にオゲレツゲーや
スケベな事いっばいできるよお♡」

「い…や……一緒になんでも♡
だめえ♡♡♡ふっ♡♡♡だめ♡♡♡」
(あ…♡♡だめえ♡♡♡
署長の♡♡…わたい…♡)



「能力を使う性犯罪者共を
全員とっつかまえて……
弱い女性たちの正義の味方にな
るんじやなかったのかよ…
くそっ！…んぐっ…」



「………どうしたんだ…
連絡も
全く取れなくなって……」



んぐっ♡
んぐっ♡
んぐっ♡

んぐっ♡
んぐっ♡
んぐっ♡

「んぐっ♡んぐっ♡んぐっ♡
ぱはぁ…んぐっ♡んぐっ♡んぐっ♡
「ぐふふ…これでボクの
ザイメンどれだけ体に
いれたかな？…それじゃあ
いいんだよね？」

どろろがが

「はぁ…いい今日からセイナは署長のパートナーでええ♡
ぶい♡ぶい♡仕事も…趣味も…ドスケベ行為も…
性●罪まで一緒にしちゃいまくる♡でへへ♡ん♡♡」
「ボクのパートナー宣言しつかり動画に残しておくから
後で正気に戻ってもコレで脅●しちゃうからね♡」
「はい♡セイナは本当は性犯●者に犯されるオカズにひたオナ♡
「変態だ♡たの望み♡♡♡♡♡」
「あぁ…能力でいられちゃったんだけ…今は清々しいオナ♡♡
「コメンナサイ…先輩…私の本性がこんなこと…♡♡♡♡♡」



「署長の相棒となった私は…
後日エロス即売会と一緒に
行くことになりました…」

「…署長の希望で私も
サークル参加すること
になったのですが…」







署 長 室





















